序

今年は新たに5名の1年生が加わり、2年生4名、3年生4名、4年生5名、過年度生1名、総勢19名のゼミとなった。教育実習は、4名の研究授業をみることができた。今年はすべて旭川近郊での実習となった。本年度卒業予定の5人は、高校1名・臨採2名・札幌市学校事務・旭川消防となった。今年も半数以上が教員であり、全員公務員となった。

ゼミ運営も例年通り、前期は主に文献購読、後期にゼミ誌の作成といった内容である。今年は『社会学入門』（弘文堂：2010）の残りからスタートし、前期は鈴木大裕の『崩壊するアメリカの公教育　日本への警告』（2016：岩波書店）、後期は耳塚寛明編の『教育格差の社会学』（2014：有斐閣アルマ）を輪読した。テーマを設定したわけではないが、偶然教育をめぐる文献になったのは、個人的には感慨深い。コンスタントに教員になる学生が続いていることを、心のどこかで気にしているということなのかもしれない。

本年度のゼミ旅行は、7月1.2日に紋別に行った。初日は、上川で昼食を摂り、アイスパビリオンを見学した後、浮島ジャンクションから北上して、滝の上の道の駅を経由して、トッカリセンターとオホーツクタワーを訪れた。2日目は紋別市立博物館と道立オホーツク流氷科学センター「GIZA」を見学した後、上藻別駅逓所を見学した。奇しくもアイスパビリオンとGIZAと、二つの厳寒体験をすることになるが、GIZAの方が強烈だという認識を得た。また、上藻別駅逓所では、強烈な印象を植え付けてくれた怪しいオヤジが印象的である。また、個人的には、移動にビートに乗り続けたのも思い出深い。また、今回も、ラーメンを2軒クリアできた。上川の駅前にある「あかし」は、意外にも煮干しのあっさり系でうまかった。また紋別の「大将」の味噌ラーメンもかなりおいしかった。

恒例のゼミイベントは、今年の工場見学は5月下旬にキッコーニホンを訪れた。ずっと気になっていたところだったのだが、念願かなったというところである。現在は醸造はしていないということで、かつて使用していた施設を見学することができた。お土産にもらったドレッシングは、残念ながらあまり口に合わず…。7月末、本年で4度目の、浜頓別町の「北オホーツク100kmマラソン」のボランティアスタッフとしての参加は、昨年に続き快晴であった。今年も夜に合流で、学生には迷惑をかけている。広報の仕事があり、ちょうど時期が重なるため、あと2年間はこの状態が続いてしまうのは残念である。また、2年間続けてきた植樹は、残念ながら今年度は未実施となった。一昨年植えたライラックは、問題はあれど8本とも健在である。昨年植えたエゾヤマザクラは、2本が枯れてしまった。しかし、8本は葉をつけた。順調に育ってくれることを願う。

角　一典